

1 教育課程の編成

(1) 教科の目標を達成するための教育課程編成上の留意事項

教育課程の編成に当たっては、地理歴史科、家庭科及び情報科などとの関連を図り、教科等横断的な視点から編成することが大切である。（「公共」及び「倫理」は、中学校社会科及び特別の教科「道徳」並びに特別活動との関連も図ることが大切である。）

【教科等横断的な視点の例】	
○ 公民科に属する科目相互の有機的な関連を図り、内容の不必要な重複がないよう留意する。	○ 「地理総合」及び「歴史総合」などの目標における各科目の趣旨に十分配慮する。
○ 家庭科の内容のうち、「自助」、「共助」、「公助」の重要性、消費行動における意志決定や契約の重要性、ライフスタイルと環境などに関する部分との関連を図る。	○ 情報や情報技術を活用して問題を発見・解決する技法、情報に関する法規や制度、情報社会における個人の責任、情報モラルなどに関する部分との関連を図る。

(2) 各教科・科目における標準単位数や履修における順序性等

ア 科目の構成等

科 目	標準単位数	履修の条件
公 共	2 単位	<ul style="list-style-type: none"> ・必履修科目は「公共」である。 ・「公共」は原則として入学年次及びその次の年次のうちに履修する。 ・「倫理」及び「政治・経済」は「公共」を履修後に履修する。
倫 理	2 単位	
政治・経済	2 単位	

イ 同一年次での履修等

<input type="checkbox"/> 年度の最初から並行履修 同一年次において年度の最初から、「公共」と「倫理」または「政治・経済」を並行で履修するといった教育課程の編成は不適切である。
<input type="checkbox"/> 学期の区分等に応じた履修 学期の区分等に応じて、履修の順序性を遵守した上で、「公共」を履修した後に、「倫理」または「政治・経済」を同一年次で履修することは可能であるが、「倫理」及び「政治・経済」が、「公共」で働かせた見方・考え方を基に、課題を追究したり解決したりする学習を重視していることを踏まえると、「公共」は、年間を通じて学習させることが望ましい。

ウ 標準単位数の増減

- (ア) 「公共」は原則として標準単位数よりも減じることはできない。
- (イ) 「倫理」及び「政治・経済」は原則として標準単位数よりも単位を減じることはできない。ただし、生徒の特性や学校の実態等に応じてやむをえない場合などには減じることができるが、履修に無理のないように単位数を定めること。
- (ウ) 増単については、生徒の実態等を考慮し、生徒の学習内容の習熟の程度などから判断し、時間をかけてその習熟を図るため、特に必要がある場合には可能である。

(3) 特色ある教育課程の編成

特色ある教育課程の編成に資するよう、生徒や学校、地域の実態等に応じて学校設定科目を設けることができる。設定する場合は、公民科の目標に基づき、名称や目標、内容、単位数等を定める必要がある。また、義務教育段階の学習内容の確実な定着を図ることを目的とした学校設定科目は、必履修科目を履修する前に履修させるよう配慮することが大切である。

2 指導計画の作成と内容の取扱い

(1) 指導計画作成に当たっての配慮事項

指導計画の作成に当たっては、単元など内容や時間のまとまりを見通して、その中で育む資質・能力の育成に向けて、主体的・対話的で深い学びの実現を図るようにすることが求められている。

その際、科目の特質に応じた見方・考え方を働かせ、社会的事象の意味や意義などを考察し、概念などに関する知識を獲得したり、社会との関わりを意識した課題を追究したり解決したりする活動の充実が求められている。

また、内容の取扱いに当たっては、次の4点に配慮すること。

① 考察、構想したことを論理的に説明したり、議論したりするなどの言語活動に関わる学習を一層重視	② 調査や諸資料から様々な情報を効果的に収集し、読み取り、まとめる技能を身に付ける学習活動を重視
③ 社会的事象については、多様な見解のある事柄、未確定な事柄を取り上げる場合は、生徒が多面的・多角的に考察したり、事実を客観的に捉え、公正に判断したりすることを妨げることのないよう留意	④ 情報の収集、処理や発表などの際に、学校図書館や地域の公共施設などを活用するとともに、コンピュータや情報通信ネットワークなどの情報手段を積極的に活用

(2) 他者と協働して主題を追究したり解決したりする活動

「公共」（大項目B）においては、現実社会の諸課題に関わる具体的な学習上の課題を「主題」として、生徒の学習意欲を高める具体的な問いを立て、協働して主題を追究し解決することを重視している。大項目Bの「主題」と「問い」の例を次に示す。

【「公共」大項目B「自立した主体としてよりよい社会の形成に参画する私たち」の「主題」と「問い」の例】

次程	主題を設ける事柄や課題	「問い」の例
第1次	法や規範の意義及び役割 幸福、正義、公正などに着目して、他者と協働して「主題」を追究したり、解決したりする。	<ul style="list-style-type: none"> 法やルールを定めるときに、どんなことを考慮する必要があるのだろうか。 法によって解決することが適切なのは、どのような問題だろうか。
第2次	多様な契約及び消費者の権利と責任	<ul style="list-style-type: none"> 契約の内容などに問題がある場合は、どのように解決したらよいのだろうか。 なぜ、契約自由の原則には例外が存在するのだろうか。
第3次	司法参加の意義	<ul style="list-style-type: none"> 国民が裁判に参加することには、どのような意義があるのだろうか。 なぜ、犯罪と刑罰を予め法律で定めておく必要があるのだろうか。
第4次	政治参加と公正な世論の形成、地方自治	<ul style="list-style-type: none"> 政治に参加することには、どのような意義があるのだろうか。 少数者の意見を尊重するためには、どうしたらよいのだろうか。

大項目に示された「主題」ごとに、具体的な「問い」を立て、生徒の日常の社会生活と関連付けながら具体的な事柄を取り上げて指導する。

「主題」を学習する順序を工夫したり、生徒の日常生活と関連付けながら具体的な事柄を取り上げたりする。

小学校及び中学校で習得した知識などを基盤とし、大項目A「公共の扉」で身に付けた選択・判断の手掛かりとなる考え方や、公共的な空間における基本的原理を活用して追究したり解決したりする学習を行うことになる。

(3) 単元の指導計画作成上の留意点

1回の授業で全ての学びを実現するのではなく、単元や題材など内容や時間のまとまりの中で、学習を見通し振り返る場面やグループなどで対話する場面を計画的に設定し、

全ての学びの実現を図ることが重要である。そのことを踏まえ、単元の指導計画例及び留意点を次に示す。

科目名	単元名
倫理	人間としての在り方生き方の自覚

内容のまとめり

1 単元の目標

- ・幸福、愛、徳などに着目して、人間としての在り方生き方について思索するための手掛かりとなる様々な人生観について理解する。その際、人生における宗教や芸術のもつ意義についても理解する。
- ・善、正義、義務、真理、存在などなどに着目して、世界と人間の在り方と人間としての在り方生き方について思索するための手掛かりとなる様々な倫理観について理解する。
- ・古今東西の先哲の思想に関する原典の日本語訳などの資料から、人間としての在り方生き方に関わる情報を読み取る技能を身に付ける。
- ・自己の生き方を見つめ直し、自らの体験や悩みを振り返り、他者、集団や社会、生命や自然などとの関わりにも着目して自己の課題を捉え、その課題を現代の倫理的課題と結び付けて多面的・多角的に考察し、表現する。
- ・古今東西の先哲の考え方を手掛かりとして、より広い視野から人間としての在り方生き方について多面的・多角的に考察し、表現する。
- ・人間としての在り方生き方に関わる事象や課題について主体的に追究したり、他者と共によりよく生きる自己を形成する。

2 単元の評価規準

知識・技能	思考・判断・表現	主体的に学習に取り組む態度
<ul style="list-style-type: none"> ・幸福、愛、徳などに着目して人間としての在り方生き方について思索するための手掛かりとなる様々な人生観について理解している。その際、人生における宗教や芸術のもつ意義についても理解している。 ・善、正義、義務、真理、存在などに着目して世界と人間の在り方と人間としての在り方生き方について思索するための手掛かりとなる様々な倫理観について理解している。 ・古今東西の先哲の思想に関する原典の日本語訳などの資料から、人間としての在り方生き方に関わる情報を読み取る技能を身に付けている。 	<ul style="list-style-type: none"> ・自己の生き方を見つめ直し、自らの体験や悩みを振り返り、他者、集団や社会、生命や自然などとの関わりにも着目して自己の課題を捉え、その課題を現代の倫理的課題と結び付けて多面的・多角的に考察し、表現することができる。 ・古今東西の先哲の考え方を手掛かりとして、より広い視野から人間としての在り方生き方について多面的・多角的に考察し、表現することができる。 	<ul style="list-style-type: none"> ・人間としての在り方生き方に関わる事象や課題について主体的に追究したり、他者と共によりよく生きる自己を形成しようとしている。

単元の学習内容に見通しをもち、自らの学習を調整しながら、粘り強く学ぼうとする。

学校教育目標(卒業までに身に付けさせる資質・能力)との関係

傾聴力	分析力	思考力	傾聴力	自己を肯定する姿勢	
	発信力			創造性	主体性

各学校における教育課程は、「当該学校の教育目標の実現を目指して設定する」(解説:総則編P51)ことから、学校教育目標と教科指導との関連が明確になるよう表記を工夫。

3 指導と評価の計画(18時間)

指導項目	問い・学習活動	知	思	態	評価の場面・留意事項
学びの重点化を図るために、単元を通して、授業のテーマ及び課題ごとに、家庭学習用動画教材を配信する。					
第1次(7時間) 1~7	古代ギリシアから近代までの思想	○	○		【知】定期考査 【態】ワークシート
	<p>【単元を貫く問い】 人間は自らの人生をどう生きればよいか、生きることの意味は何か</p> <p>良識ある公民としていかに在るべきか、いかに生きるべきか</p> <ul style="list-style-type: none"> ・先哲の基本的な考え方について理解 ・問いに対する自分の意見を論理的、批判的に考察するとともに、異なる考えを持つ他者と対話 				単元の学習内容に見通しを持たせるため、「単元を貫く問い」を設定し、自らの学習を調整しながら、粘り強く学ぼうとする。

	指導項目	問い・学習活動	知	思	態	評価の場面・留意事項
第2次 (2時間) 8～9	キリスト教 「主体的・対話 的で深い学びの 実践事例」 (P8に掲載)	キリスト教では人間をどのように捉え、ど のように生きることを指し示しているか ・キリスト教の人間観について理解 ・「神の愛」「隣人愛」について思索し、 人間としてのより良い生き方について 思索		○	○	【思】 ワークシート 【態】 資料アンケート 授業アンケート 【学びの重点化】グループワ ークに重点を置くため、事前に動 画(道教委online学習サポート サイト)を家庭で視聴。
第3次 (2時間) 10～11 第4次 (2時間) 12～13	イスラーム 仏教	イスラームでは社会の中で人間がどのよ うに生きることを指し示しているか ・イスラーム教の教え(法律、政治、経済、 社会生活等の規範)について理解 ・共同体の在り方や人間相互のつながり について思索		○	○	【知】 定期考査 【思】 ワークシート 【態】 資料アンケート 授業アンケート
第4次 (2時間) 12～13	仏教	仏教では人間をどのように捉えているか、 どのように生きることを目指しているか ・人生における不安や苦は、いかにして 生まれるかについて理解 ・慈悲の教えについて理解 ・生命の大切さや人間としてどう生きれ ばよいかについて思索		○	○	【思】 ワークシート 【態】 資料アンケート 授業アンケート ・単元を構成する項目ごとに観点を 設定し、評価の重点化を図る。 ・単元全体を通してバランスよく三 観点の評価場面を設定することが大 切。
第5次 (2時間) 14～15	儒教	儒教では人間をどのように捉えているか、 どのように生きることを目指しているか ・人間についての見方や、望ましい人間 関係を築きながらどのように社会生活 を送るかについて思索 ・人間についての深い洞察や共感的理解 の重要性について理解		○	○	【態】 資料アンケート 授業アンケート 【知】 定期考査 「社会的事象の地理的な見方・ 考え方」を生徒が働かせ、鍛える ためには、適切な「主題」や「問 い」を立て、それらを中心に構成 した学習活動の実施が必要。
第6次 (3時間) 16～18	芸術家とそ の作品 先哲が探究した課題を考 察したり、芸術家が作品に 込めた問いかけを探究し たりしながら、人間として の在り方生き方について思 索を深める。	芸術とは何か、芸術が人生や社会に与え る影響はどのようなものか ・自分自身の内面には美を求める心があ ること、それが人生を豊かにするも のであることを理解 「単元を貫く問い」について、授業で学習 した内容を踏まえ、ワークシートに答えを表現		○	○	【知】 定期考査 【思】 ワークシート 単元を貫く問いの答えを考 えることで、単元の学習内容 を振り返る。

科目名	単元名	内容のまとめ
政治・経済	現代日本における政治・経済の諸課題の探究	内容のまとめ

1 単元の見方・考え方を総合的に働かせ、他者と協働して持続可能な社会の形成が求められる現代日本社会の諸課題を探究する活動を通して、課題の解決に向けて政治と経済とを関連させて多面的・多角的に考察、構想し、よりよい社会の在り方についての自分の考えを説明、論述する。

2 単元の評価規準

知識・技能	思考・判断・表現	主体的に学習に取り組む態度
	・社会的な見方・考え方を総合的に働かせ、他者と協働して持続可能な社会の形成が求められる現代日本社会の諸課題を探究する活動を通して、課題の解決に向けて政治と経済とを関連させて多面的・多角的に考察、構想し、よりよい社会の在り方についての自分の考えを説明、論述している。	・現代日本における政治・経済の諸課題について、国家及び社会の形成者として、よりよい社会の実現を視野に、主体的に追究しようとしている。

学校教育目標(卒業までに身に付けさせる資質・能力)との関係

傾聴力

分析力

思考力

傾聴力

自己を肯定する姿勢

発信力

創造性

主体性

「各学校における教育課程は、当該学校の教育目標の実現を目指して設定する」(解説:総則編P51)ことから、学校教育目標と教科指導の関連が明確になるよう表記を工夫すること。

3 指導と評価の計画 (21時間)

	指導項目	問い・学習活動	知	思	態	評価の場面・留意事項
第1次 (5時間) 1～5	少子高齢社会における社会保障の充実と安定化	<p>【単元を貫く問い】 よりよい社会の実現のために私たちは何ができるのだろうか。</p> <p>真に豊かで持続可能な社会の実現のためには、自助、共助及び公助のどちらがよいのだろうか。</p> <p>自助 ↔ 共助及び公助</p> <p>・上記を対照させ分析</p>	○			<p>【思】 ワークシート</p> <p>【探究の観点】 真に豊かで持続可能な福祉社会の実現という観点から探究する。</p> <p>【学びの重点化】 家庭学習でワークシートをまとめ、授業のテーマ及び課題に対する解決のための仮説を立て、解決方法を検討する。</p>
第2次 (4時間) 6～9	地域社会の自立と政府	<p>地域社会が特色を生かしながら自立し、住民生活が向上していくために、どのような政策や制度が必要だろうか。</p> <p>【調べる】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・自らが居住している地域社会が高度経済成長期以降どのように変化してきたのか調査・分析 ・レポートを作成 	○			【思】 レポート
第3次 (4時間) 10～13	多様な働き方・生き方を可能にする社会	<p>仕事と生活の調和(ワークライフ・バランス)を保ち、多様な働き方・生き方を選択できる社会のために必要なことは何だろうか。</p> <p>労使協調などにより雇用の安定を確保するという考え方 ↔ 労使の新しい関係などにより労働力を効率的に活用するという考え方</p> <p>・上記を対照させレポートを作成</p>	○			<p>【思】 レポート</p> <p>【探究の観点】 年齢で区分せずに能力や意思があれば働き続けられる雇用環境の整備、仕事と生活の調和(ワークライフ・バランス)の観点などから探究する。</p>
第4次 (4時間) 14～17	産業構造の変化と起業	<p>日本の産業と中小企業の在り方は、政府による保護育成と自由化のどちらがよいのだろうか。</p> <p>経済の安定化のための政府による保護育成の立場 ↔ 規制緩和をさらに進める自由化の立場</p> <p>・上記を対照させレポートを作成</p>	○			<p>【態】 レポート</p> <p>【探究の観点】 企業の規模や新たな起業による社会全体の利益、消費者、労働者の利益などの観点から、経済活動の具体的な成果に関わって探究する。</p>
第5次 (4時間) 18～21	歳入・歳出両面での財政健全化	<p>歳入・歳出両面を見直し、財政健全化をどのように進めたらよいか。</p> <p>今日見られる福祉国家の在り方の維持と安定を重視しつつ財政健全化を進める考え方 ↔ 今日見られる福祉国家の在り方を見直し、財政健全化を進める考え方</p> <p>・上記を対照させレポートを作成</p> <p>「単元を貫く問い」について、授業で学習した内容を踏まえ、定期考査で答えを表現</p> <p>・本単元で生徒が特に重要であると考えた課題及び解決の方向性等について定期考査で論述</p>	○			<p>【思】 レポート</p> <p>【思】 定期考査</p> <p>【探究の観点】 歳入や歳出についての見直し、国民生活や福祉の向上、経済活動の活性化、世代間の公平性などの観点から探究する。</p> <p>単元を貫く問いの解を考えることで、単元の学習内容を振り返る。</p>

3 主体的・対話的で深い学びの実践例

新学習指導要領に定められた内容を踏まえるとともに、主体的・対話的で深い学びの実現に向けた効果的な指導を行うため、学習活動の重点の置き方に工夫をした、「倫理」及び「政治・経済」の実践例を示す。

(1) 学びの重点化を図った「倫理」の実践事例

◆ 単元の指導計画（例）

単元名	人間としての自覚			
単元の目標	人生における哲学、宗教、芸術のもつ意義などについて理解させ、人間の存在や価値に関わる課題について思索させることを通して、人間としての在り方生き方について考えを深めさせる。			
評価の観点	関心・意欲・態度	思考・判断・表現	資料活用 の技能	知識・理解
評価規準	評価規準の作成、評価方法等の工夫改善のための参考資料（国立教育政策研究所）参照のこと			
次程	学習内容と問い			評価の観点
				関 思 技 知
第1次	【学習内容】「自然哲学者」「ソフィスト」の思想等について考察する。			
	【問い】自然哲学者とソフィストのどちらが現代社会に通用するか。		○	
	【学習内容】ソクラテスとプラトンの思想のつながりと相違点を理解する。			
	【問い】プラトンは、ソクラテスのどのような考えに影響を受けたか。			○
第2次（本時）	【学習内容】アリストテレスのいう「中庸」や「友愛」について考察する。		○	
	【問い】アリストテレスの思想は、私たちの生活のどのような場面に役立つか。			
第3次	【学習内容】「アガペー」「隣人愛」などキリスト教の教えについて考察する。		○	○
	【問い】「隣人愛」の思想は、高校生活のどのような場面に役立つか。			
第3次	【学習内容】イスラームの成立や信仰の特徴について理解する。			
	【問い】イスラームが世界に広まっている理由は何か。			○

◆ 学びの重点化を図った効果的な学習指導（例）

前時

- 次回の授業のテーマ及び課題を提示する。
- QRコードが印刷されたプリントを配付する。

家庭学習

- 動画「イエスの思想」（QRコード読取）を視聴しイエスの基本的な考え方を理解させる。
- 資料「隣人愛」を読み、アンケートや読解問題（QRコード入力）に取り組むことで自己理解を促す。

授業

- アンケート結果や読解問題の解答結果をもとに、ペアワーク等を通して「隣人愛」の意義について考察する。

評価

- ワークシートの記述内容を評価する。
- 授業後、「授業アンケート」（QRコード入力）を配付し、生徒に入力させる。

※動画を視聴させる際は、道教委「Online学習サポートサイト」（右）を活用することが可能。
<http://www.koukou.hokkaido-c.ed.jp/douga/index.html>

【留意点】

○ICT活用ための環境が整っていない生徒は、資料アンケートや読解問題を記載したワークシートを配付。

【学びの重点化】

- ・事前学習として動画等を準備し、生徒が家庭で予習する。
- ・問いを見いだす活動や、個人の答えをグループで話し合いまとめていく活動に重点を置くことを重視した授業を実施する。

※家庭で視聴できる環境が整っていない生徒には、学校で視聴できるようにするなど配慮する。

Online学習サポートサイト

【1】教材ダウンロード



授業を実施する際に、必要の教材をダウンロードできます。

＜こちらをクリック＞

【2】オンデマンド形式による授業



ロケーションとパスワードを使用して、授業を視聴できます。

＜こちらをクリック＞

【3】質問及び授業後のアンケート



一つの授業を視聴し終わると、質問や感想を入力できます。

＜こちらをクリック＞

◆ 1 単位時間の指導と評価の計画（例）

1 本時の目標

(1) 資料の読み取りを通して、イエス＝キリストが教える「隣人愛」について理解する。

(2) 「隣人愛」は、高校生活のどのような場面に役立つだろうか」という問いをもとに、「隣人愛」の意義について考察する。

2 本時の展開（全10時間予定の4時間目）

過程	学習内容	生徒の学習活動	指導上の留意点
導入	○アンケート・読解問題集計結果	○「アンケート、読解問題の集計結果をどう思うか」について、ペアワークに取り組む。	○アンケート結果について、表の見方を解説し、ペアワークの取組を促す。
展開	○律法の内面化 ○神の愛（アガペー） ○資料「隣人愛」	○イエスの思想の概要（律法の内面化、神の愛（アガペー））について説明を聞く。 ○資料「隣人愛」の内容をより理解するため、ペアワークにより読み取った内容を説明し合う。 ○神の愛（アガペー）と「隣人愛」は、どの程度関連するかペアワークで互いの意見を交換する。	○イエスが批判した形式化した律法の考え方について、日常生活の具体的な事例を用いて理解を促す。 ○「隣人愛」を、神の愛（アガペー）から導かれている考えから捉えさせる。
まとめ	○ワークシート	○ワークシートの問いに取り組み、「隣人愛」の意義について考察する。	○QRコードを利用して「授業アンケート」に回答するよう指示する。

〈ICTを活用した学習活動のポイント〉

- 動画「イエスの思想」を通して、神の愛（アガペー）など基本的な考えを理解します。
- 資料集「隣人愛」を読み取り、アンケート及び読解問題に取り組みます。
- 以下のQRコードを使って、それぞれにアクセスして取り組みます。

「動画」イエスの思想 入力フォーム「隣人愛」



「授業の展開場面の工夫」

- 隣人愛の思想は、神の愛（アガペー）との関連で捉えることの重要性を指摘し、資料の読み取りの背景にあるイエスの考え方のベースを明確にする。
- 「本時の問い」は、人間の在り方や生き方について、自分の言葉で表現することがねらいであることを生徒に理解させる。

〈ICTを活用した学習活動のポイント〉

入力フォーム「授業に関するアンケート」

- 「授業アンケート」のデータを利用してPDCAサイクルで授業改善のための生徒の理解度を把握する。
- レーダーチャートを用いて分析しやすい形式に加工する。



◆ ワークシートの活用（例）

○授業ワークシート

【問い】「隣人愛」は、高校生活のどのような場面で役立つだろうか。

具体的な場面をイメージして自分の言葉で書いてみよう。

○評価方法の例 ※以下の3段階を規準にして評価します。

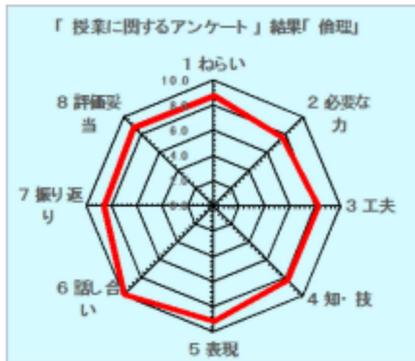
A	説明のために必要な根拠が十分に示されている。
B	説明のために必要な根拠に不足が見られる。
C	説明のために必要な根拠が乏しい。

- ワークシートでは「問い」を明示する。生徒は「問い」を通して本時のねらいを把握することができる。
- ワークシートに取り組み始める際は、考察したことを自分の言葉で表現させることが大切である。学んだ内容を踏まえて自分の言葉で記述できている生徒は、理解が深まっている証拠である。

- ワークシートの評価は、評価の作業時間が膨大にならないよう留意する必要がある。また、何を目的とするものかを明らかにして評価規準を設定する必要がある。具体的には、評価の実施回数（毎時間か単元ごとか）や評価の種類（知識の定着を測る評価、生徒の学習状況を把握する評価、教員の授業改善に資する評価等）の視点が挙げられる。
- 実践例で示した「評価の方法の例」は、生徒の学習状況を把握する視点によるもの。

◆ 「授業に関するアンケート」の活用（例）

- 「授業に関するアンケート」のレーダーチャートを作成する。（A高等学校「倫理」選択者31名の実践をもとに作成）



○授業改善の視点例

（改善の視点）「2」から、「自分に必要な力が見に付いているか」について、学ぶ意義が生徒に浸透していない→各単元を学ぶ意義について理解を深める取組が必要である。

（継続の視点）「5」から、授業での話し合い（ペアワークなど）や自分の考えを表現する場面（ワークシートなど）の設定が生徒に浸透しつつある→取組を継続する。

- 「授業に関するアンケート」項目は、以下のとおり。

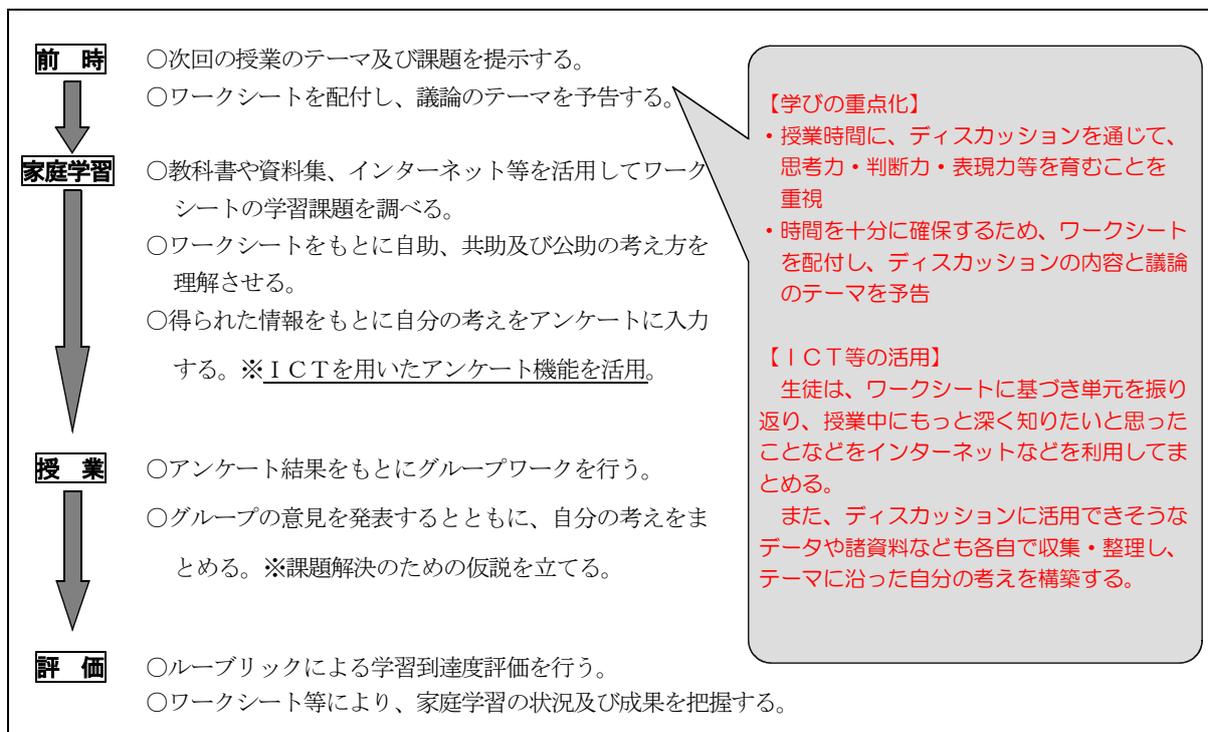
- 1 この授業では、授業のポイント（「本時の問い」や「学習のねらい」）が分かりやすく示されている。
- 2 この授業を通して、自分に必要な力が身に付いていると感じる。
- 3 授業に意欲的に取り組めるような工夫を感じる。
- 4 この授業を通して、新たな知識や技能を獲得していると思う。
- 5 この授業では、学んだことを用いて自分で考え、その考えを表現する機会がある。
- 6 この授業では、生徒同士が話しあったり、互いに意見を交換する機会がある。
- 7 この授業では、授業や単元（一つのまとまった内容）を振り返る機会が用意されている。
- 8 この授業では、自分の学びが妥当に評価されていると思う。

(2) 学びの重点化を図った「政治・経済」の実践事例

◆ 単元の指導計画（例）

単元名	現代社会の諸課題 ア 現代日本の政治や経済の諸課題（全6時間）			
単元の目標	政治や経済などに関する基本的な理解を踏まえ、持続可能な社会の形成が求められる現代社会の諸課題を探究する活動を通して、望ましい解決の在り方について考察を深めさせる。			
評価の観点	関心・意欲・態度	思考・判断・表現	資料活用の技能	知識・理解
評価規準	評価規準の作成、評価方法等の工夫改善のための参考資料（国立教育政策研究所）を参照のこと			
次程	学習内容と「問い」			評価の観点
				関 思 技 知
第1次 (本時)	<p>【学習内容】 少子高齢社会と社会保障について探究し、家族、介護、雇用、医療など様々な面から調べ、その解決のための方法について考察する。</p> <p>【問い】 今後の社会保障は、「自助」、「共助」、「公助」のうち、どの立場をとるべきか。</p>			○ ○
第2次	<p>【学習内容】 地域社会の変貌と住民生活について探究し、地域の政治や経済の動きが住民の生活にも深く関わっていることを理解する。</p> <p>【問い】 地域社会が特色を生かしながら自立し、住民生活が向上していくために、どのような政策や制度が必要だろうか。</p>			○
第3次	<p>【学習内容】 雇用と労働を巡る問題について探究し、非正規労働者、女性や若年者等の雇用や労働問題などの課題について、諸資料をから読み取り表現する。</p> <p>【問い】 仕事と生活の調和（ワーク・ライフ・バランス）を保ち多様な働き方・生き方を選択できる社会のために必要なことは何だろうか。</p>			○

◆ 学びの重点化を図った効果的な学習指導（例）



◆ 1 単位時間の指導と評価の計画（例）

1 本時の目標

(1) 真に豊かで持続可能な福祉社会の実現という観点から、「自助」、「共助」、「公助」による社会保障の考え方を比較して考察する。

(2) 他者と協働し、持続可能な社会の形成に向けた取組を構想する。

2 本時の展開（全2時間予定の1時間目）

過程	学習内容	生徒の学習活動	指導上の留意点
導入 (5分)	○家庭学習の振り返り	○事前課題（ワークシート及びアンケートを確認する。	○本時の見通しをもたせる。
展開 (40分)		○「自助」、「共助」、「公助」による社会保障の考え方を比較させ整理する。	
		○今後の社会保障の在り方について	○アンケート結果を共有する。 ○ワークシートを基にグループで「自助」、「共助」、「公助」による望ましい社会保障の在り方について話し合う。 ○グループの考えをまとめる。 ○グループの意見を発表する。
まとめ (5分)	○今後の社会の在り方について	○本時での新たな気付きや疑問点等をワークシートに記入する。個人で取り組んだ後、グループで共有する。 ○評価問題に取り組む。	○家庭学習でのアンケート結果を提示し、見方を解説する。 ○調べてきた諸外国の社会保障の考え方を活用するよう促す。 ○授業の前後で考えに変化があったか、問いかける。 ○最後にもう一度アンケートに答えるよう指示する。 ○新たな気付きや、さらに調べたい内容など、発展的な学びとなるよう工夫する。

【問い】 今後の社会保障は「自助」、「共助」、「公助」、どの立場をとるべきか。

○ 持続可能な社会について、他者と協働して考察する活動は、新科目「公共」や「政治・経済」においても学習する。

○ ここでは「自助」、「共助」、「公助」それぞれの立場を比較して考察する学習を例示しているが、生徒の実態に応じて、課題の設定、情報の収集、整理・分析、まとめ・表現などの探究的な学習を展開することも考えられる。その際、整理・分析は、家庭学習で行い、まとめ・表現は学校で行うなどの重点化を図ることも可能である。

○ 無料で使用することができるアンケートのフォームについては、「Googleフォーム」、「Mentimeter」等がある。

〈「家庭学習及び授業のまとめに関するアンケート」 Googleフォームで作成

◆ ワークシートの活用例

- 1 少子高齢化に関する以下のキーワードをまとめよう。（諸外国の社会保障制度、教科書に書いてある重要語句等を調べる。）
- 2 少子高齢化の影響について、まとめよう。（今後、労働力需給や経済成長に大きな影響がある点、医療や年金など社会保障費の財政負担が増える点等、次のまとめに関わる内容をまとめる。）
- 3 今後の社会保障の在り方について、「自助」、「共助」、「公助」の立場を踏まえ、自分の考えを書きなさい。

○ 今後の少子高齢化及び社会保障についてまとめる際、生徒の社会的な見方・考え方を働かせるように留意することが大切。

○ 探究的な学習課題として、例えば、「世代間の公平性を確保する受益と負担の均衡」、「子育て支援や教育費の支援と生活保障」など、生徒の将来に直面する課題を設定し、生徒が自分の考えを説明、論述できるテーマを設定して探究することが考えられる。

○ 持続可能な社会保障の在り方について様々な立場を踏まえ、広い視野から自分の考えを説明、論述できることが重要である。

◆ 評価問題（パフォーマンス課題）等（例）

<問い>

日本においては、少子高齢化が進行しており、現在から5年後の2025年には、国民の3人に1人が、65歳以上となることが予測されています。

そこで、あなたが国会議員になったとして、この予測を踏まえ、どのような施策を実施しようと考えますか、授業で学んだ内容を踏まえ、根拠を用いて書きなさい。

【思・判・表】

【評価規準（ループリック）の例】

- A 少子高齢化の課題を踏まえ、社会保障に関する施策について、自分の立場を明確にしながら根拠に基づき具体的に論じている。
- B 少子高齢化の課題を踏まえ、社会保障に関する施策について、根拠に基づき論じている。
- C 少子高齢化の課題が踏まえられておらず、根拠も論じられていない。

Topic

教科等横断的に取り組む「主権者教育」の推進

国家・社会の形成者としての意識を醸成するためには、グローバルな視点で国家的な課題などを知ることと同様に、ローカルな視点で身近な社会の課題などを知ること重要である。

身近な社会の課題を知り、地域の構成員の一人としての意識を育むためには、学校だけでなく、地域資源を活用した教育活動・体験活動や、子どもが地域行事などについて、単なる参加者ではなく、主催者の一人として参画し、主体的に関わる機会など意図的に創出していくことが必要である。

ここでは、生徒が地域の課題に目を向け、自らその解決策を構想するため、公民科及び総合的な探究の時間を中心として教科等横断的に取り組んだ主権者教育の実践例を示す。

◆教科等横断的な主権者教育の実践例（2学年「総合的な探究の時間」年間指導計画例（一部））

時期（月）	単元・項目	学習内容	担当教科・関係機関等
前期開始	「オリエンテーション」	探究学習の説明 ・探究学習の意義を理解	【総合的な探究の時間】
5月以降	「探究基礎学習」 ～“考える技法”の理解～ 今後の探究活動に向け、身近な生活に関わる課題について考察し、解決を図るなど、探究の手法を学ぶ。	町の特産品のPR活動 ・特産品の理解 ・新たなスイーツの考案 ・試作品の製造	【総合的な探究の時間】 【地理歴史科】 【家庭科】 町役場、観光協会、農協
夏季休業後	「課題の設定」  議会を傍聴する学習をもとに、生徒自身が身近な生活に関わる課題を設定し、解決策を考察する。	議会等傍聴 ・議会の役割の理解 ・議員との意見交換 ・議会議論の把握 課題の設定 ・議会議論を手がかりに課題を設定 グループワーク ・リサーチクエスト設定 ・仮説の立案 ・検証のための手立てを検討 フィールドワーク ・検証のためのデータ収集 グループワーク ・データを整理、分析して解決策を立案	【公民科】 町議会事務局 【公民科】 【総合的な探究の時間】 町議会事務局
11月以降	「情報の収集」		
冬季休業後	「整理・分析」		【総合的な探究の時間】 学校運営協議会委員が参加
2学年	「まとめ・表現」	発表・まとめ ・1学年の生徒も参加（次年度の動機付け）	

◆実践のポイント

教育課程の中核として位置付けた「総合的な探究の時間」を活用し、各教科・科目と関わりを意識して主権者教育の充実を図ることが重要である。

関連する教科・科目等の学習で学んだことを生かして考察するよう働きかける。

市町村議会事務局等と連携して議会傍聴等を行うほか、北海道議会が発行している高校生向け議会広報紙『みんなの道議会』等の資料を活用することも考えられる。北海道議会HP（<http://www.gikai.pref.hokkaido.lg.jp/Contents/kids/minnanodougikai.htm>）を参考。

副教材『私たちが拓く日本の未来』の実践編「地域課題の見つけ方」を活用する。

新科目「公共」や「政治・経済」で得た知識及び技能を活用するほか、議会の傍聴等を通して学んだことをもとに、探究したい具体的な課題や「問い」を設定し、仮説を立てる。

学校に関わる方々の協力を得て議論を行うことも考えられる。

発表することのみを目的とせず、探究学習の振り返りを行うことにより、新たな課題を発見するなど、次の学びにつなげていく。

【問い】地域の活性化のために私たちはどのように関わり、主権者として持続可能な社会づくりの主体となればよいのか。

◆学習のポイント（「学びの重点化」の視点）

- | | | |
|-------|---|---------------|
| 議会傍聴前 | ○ 「公共」や「政治・経済」等において、議会傍聴前に次の内容について重点化して学習する。
・地方自治の本旨である団体自治、住民自治の考え方
・選挙権年齢が満18歳以上に引き下げられた趣旨、選挙の意義、政治的無関心が与える危険性
・主権者として良識ある公正な判断力等を身に付けることの重要性 | 学びの重点化 |
| ↓ | ○ 議会傍聴前の学習を踏まえ、議会で議論された事例を考察するとともに、探究課題を設定する。
※自らが探究したい地域の課題や「問い」の設定 | |
| 議会傍聴後 | ○ 地域社会の課題解決に必要な情報を適切かつ効果的に収集、整理・分析し考察、解決策を構想する。
※探究課題の解決に取り組み、主権者として必要な資質・能力を育成 | |

◆留意点

対立する見解がある政治等の課題を取り扱うことは、生徒が現実の社会について具体的なイメージを育むことに役立つなどの効果が考えられますが、一方で学校は、政治的中立性を確保する必要があることから、次の点に留意して行うことが重要です。

- 一つの結論を出すよりも結論に至るまでの冷静で理性的な議論の過程が大切であることを理解させること。
- 生徒の考えや議論が深まるよう様々な見解を提示することが重要であること。
- 特定の事柄を強調しすぎたり、一面的な見解を十分な配慮なく取り上げたりするなど、特定の見方や偏った取扱いとならないよう指導する必要があること。

参考資料 『私たちが拓く日本の未来』総務省・文部科学省（http://www.mext.go.jp/a_menu/shotou/shukensha/1362349.htm）